

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32623

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720116

研究課題名(和文) 中世東国宗教と文芸伝承の総合的研究 唱導、縁起、物語を視座として

 研究課題名(英文) Comprehensive Research on Religion and the Transmission of the Literary Arts in
 Medieval Eastern Japan: From the Perspective of Preaching, Origin Tales, and
 Narrative Literature

研究代表者

阿部 美香 (ABE, MIKA)

昭和女子大学・人間文化学部・非常勤講師

研究者番号：10449093

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：東国の宗教文芸を解明する上で重要な安居院唱導資料の研究のうち、特に歴博本『転法輪鈔』については共同で翻刻と解題作成を行い、国立歴史民俗博物館の研究報告書にまとめることができた。その過程で重要な研究対象となった『融通念仏縁起』の研究は、国内外で諸本調査を積み重ね、鎌倉時代後期の正和本から、南北朝・室町時代の良鎮による勸進本の成立と展開の諸相を明らかにするとともに、勸進状絵巻としての比類無い独創性を解明し、その成果を国内外に広く発信することができた。

研究成果の概要(英文)：In the context of research on Agui preaching (shoudou) sources essential for understanding the religious literature of Eastern Japan, this study focused specifically on the Tenpourin shou held at the Rekihaku. A transcription and annotation of this document was produced through collaborative work, and a report of this research was submitted for the Rekihaku. Research on the Yuzu nenbutsu engi, which became a significant subject of examination in the process of this work, entailed investigations on textual variants held in Japan and abroad. Based on research on the Shouwabon variant from the late Kamakura period, it was possible to clarify various aspects of the formation and evolution of the fund-raising texts (kanjinbon) composed by Ryochin of the Nanboku and Muromachi periods as well as to demonstrate the unparalleled originality of the work as an illustrated scroll for fund-raising. These findings were disseminated broadly both in Japan and abroad.

研究分野：人文学(日本中世文学)

キーワード：唱導 中世宗教文芸 寺社縁起 冥途蘇生譚 箱根権現縁起絵巻 融通念仏縁起絵巻

1. 研究開始当初の背景

日本の中世文学研究では、文学の生成基盤となった寺院の学問や「聖教」に対する関心が高まり、寺院や文庫の悉皆調査に基づく成果を上げつつある。そうした学界動向のなかで、研究代表者も金沢称名寺聖教の悉皆調査に参加し、学振の特別奨励研究員(2004~06年度)として取り組んだ中世東国の神話形成に関する研究を通して、東国の宗教文芸の解明にはその母胎となった唱導文献史料の研究が必須であると考えに至った。

すでに、国立歴史民俗博物館における公募型共同研究「中世における儀礼テキストの総合的研究」(2008~10年度)において、共同で安居院唱導文献の解読に取り組み、その成果の一端を、アメリカ・イリノイ大学で行われたイリノイ大学・国立歴史民俗博物館・名古屋大学共同国際研究集会「東アジアにおける宗教テキストと表象文化」において報告している(2010.10.6)。また、基盤研究(A)「大画面説話画の総合研究」(代表佐野みどり、2010~2014年度)の研究分担者として、中世の説話画の研究に取り組んでいる。

本研究は、これらの活動成果を更に進めて、中世東国の宗教文芸の総合的研究として取り組むものである。

2. 研究の目的

本研究は、東国の唱導や仏教儀礼と密接な関係を有する中央の唱導文化とその文献群について、とりわけその中枢にあって後白河院の文化を受け継ぐ女院の仏事にも着目し、東国の宗教文芸の基盤を成す唱導文化の総合的研究を目指すものである。

3. 研究の方法

(1)安居院唱導文献の探査と分析的研究

研究対象となる唱導文献について、寺院や文庫に所蔵される一次資料にもとづく、アーカイブス化を含めた目録化を目指しながら、歴博本『転法輪鈔』や金沢称名寺聖教『上素帖』等の文献学的研究と、その歴史・美術・芸能・儀礼など分野融合的な研究を進める。

(2)唱導文献を介した寺社縁起研究

重要作品を中心に、国内外に所蔵される縁起絵巻について、美術史や歴史学の研究者と共同して原本調査と作品研究に取り組む。その成果は、作品を所蔵する博物館・美術館の学芸員を交えた研究会や国際研究集会等を通して、国内外に発信する。

(3)寺院聖教の悉皆調査に基づく、東国宗教テキストの探査

京都・勸修寺聖教や愛知・大須文庫などの悉皆調査に参加、また富士市立博物館からの委託を得て旧東泉院(下方五社と称される富士浅間社別当)聖教の悉皆調査と目録作成を行い、中央と東国を結んで集積された宗教テキストの全体像を捉えるケーススタディと

する。

(4)中世の宗教文芸の研究成果の社会的発信
国内外の大学院生を交えたワークショップや一般向けの講演などを通して、(1)~(3)の研究成果や、中世宗教文芸の価値を発信する。

4. 研究成果

(1)安居院唱導文献の研究として、最も大きな成果は、歴博の公募型共同研究を介し、その後も継続して共同で取り組んできた安居院唱導文献を代表する歴博本『転法輪鈔』の翻刻と解題、および論文が、『国立歴史民俗博物館研究報告』の特集号としての公刊に結実したことである。研究代表者も参加したアメリカ・イリノイ大学での『転法輪鈔』をめぐるセッションや、牧野淳司氏による学会・論文発表等を通じ、本資料の学術的な価値の大きさは国内外の、しかも歴史学や美術史学、思想史等、隣接する諸分野の研究者に認められており、中世の歴史文化、文学、宗教儀礼の研究に不可欠な資料になるものと注目されている。今後は中世文学を代表する『平家物語』や『曾我物語』研究や、唱導の場である儀礼との関わりを含めた一層の総合的研究が期待される。

また、安居院の唱導と儀礼に関わる研究として、金沢文庫で開催された中世禅籍資料調査研究会(2013.8.12)において、「涅槃会の儀礼と講式 曹洞宗の清規に受容された涅槃講式を手がかりとして」と題し行った報告は、中世涅槃会の研究に新たな視座を与えるものであり、さらなる継続研究を経て論文化を目指したい。

(2)唱導文献を介した寺社縁起研究の成果として特筆されるのは、安居院唱導文献『上素帖』の研究を通して重要な研究対象となった『融通念仏縁起』絵巻研究の進展である。

『上素帖』の紙背から明らかになった融通念仏の歴史を、絵巻研究から解明すべく、まずロンドン大学 SOAS で開催された国際研究集会「前近代の日本におけるあらたな法会・儀礼学の構築をめざして ことば・ほとけ・図像の交響」(2011.5.12)において、「融通念仏縁起絵巻を読む」と題し発表を行い、本格的な研究に取り組んだ。本絵巻は国内外に数多くの諸本が存し、それら一次資料の調査は必須である。幸いにも、佐野みどり氏を代表とする「大画面説話画の総合研究」を介し、これまで本絵巻の研究の中心的な担い手であった美術史研究者と合同での現地調査や研究会を行い、諸本の位置付けを含めた議論を重ね、深めることができた。

例えば、大画面説話画研究会と加須屋誠氏の協力を得て、安楽寺および奈良女子大学で開催された調査研究会(2012.2.19)では、現存唯一の掛幅本縁起絵巻の調査とあわせ、高岸輝、大原嘉豊らとともに研究報告を行い、

最新の成果と課題を共有することができた。また、最重要テキストであるアメリカのシカゴ美術館本およびクリーブランド美術館本の調査は、それぞれ佐野みどり氏、山本聡美氏の協力を得て実現し（2012.3.14、2013.10.11）現地で研究報告も行った。特にシカゴ美術館では、美術館の学芸員も参加しての研究報告会になり、今後の進展が期待された。

このような原本調査や研究会の積み重ねによって、諸本の特色が明らかになり、その研究成果を説話文学学会50周年記念大会シンポジウムにおいて報告し、広く学界に提示した（2012.6、立教大学）。更に、儀礼や芸能との関わりについても探究を深め、絵巻の成立と展開を能『百万』の成立とともに問い直す成果報告を、アメリカ・イリノイ大学で開催された国際研究集会「東アジアの宗教とパフォーマンス、都市と地域」（2013.10.9）において行い、アメリカの研究者から高い評価を得ることができた。

原本調査に基づく諸本研究とそれを踏まえた文献学的研究は、正和本絵巻の成立意義と、南北朝・室町時代における良鎮勸進本の展開を明らかにすることに繋がり、大画面説話画研究会の協力を得て東京国立博物館で開催された研究会「クリーブランド美術館蔵融通念仏縁起絵巻のパススペクティブ 東博本不動利益縁起絵巻との対比から」（主催：若手研究（A）「絵巻の伝来をめぐるとの総合的研究」代表土屋貴裕、2014.2.19）における研究報告において、「正和本『融通念仏縁起』絵巻の独創性とその展開」と題し発表した。

その後、融通念仏縁起の成立と展開を解明するための不可欠なテキストとして、理円勸進帳の重要性に着目し、室町期に遡る写本を確認した。これを踏まえ、絵巻制作の運動を中世の勸進社会のなかに位置付けることにより、本絵巻が「勸進帳絵巻」と呼ぶべき特質を具え、従来の絵巻研究の常識を越えた宗教テキストであることが見えてきた。そこで、これを踏まえた4年にわたる『融通念仏縁起』研究の集大成となる研究報告を、ハーバード大学において開催された、宗教遺産学の研究成果報告シンポジウム（代表上島享、2014.10.11）において、「宗教遺産としての融通念仏縁起絵巻 絵巻が創造・展開する宗教空間」と題し行った。その機会はハーバード大学美術館本『融通念仏縁起』絵巻の調査（2015.3.20）に結びつき、あわせてハーバード・イェンチン研究所で研究報告（2015.3.22）を行うことができた。この調査と研究会は、ハーバード大学の美術史、宗教史研究者、若手研究者、院生と合同でのワークショップとなり、調査の方法と成果を共有するかたちとして、1つのモデルを提供するものとなった。

また、これを継承発展させ、理円勸進帳の研究を踏まえた新たな課題を、学習院大学で

の国際シンポジウム「Frames and Framings in a transdisciplinary perspective」（代表佐野みどり、2015.3.8）において提示した。

このように、国内外の学界で発信してきた最新の研究成果は、融通念佛宗総本山大念仏寺から刊行される開宗九百年・大通上人三百回御遠忌奉修記念論文集に論考として公開され、広く社会貢献に繋げることができた。

なお、大念仏寺での記念講演（2013）ハーバード大学での研究報告（2014）にあわせ、最新の成果や資料を掲載した2冊の資料集（『宗教遺産としての融通念仏縁起絵巻』『融通念仏縁起絵巻の成立と展開』）を制作し、速やかな研究成果の還元を図った。

(3) 寺院聖教の悉皆調査に基づく、東国宗教テキストの探究では、富士市博物館に所蔵される旧東泉院聖教について悉皆調査を行い（代表阿部泰郎）総合的な総合成果を目録作成というかたちでまとめ、『六所家総合調査報告書 聖教』（富士市博物館編）として刊行することができた。東泉院聖教は、世界文化遺産の構成要素からは外れてしまっているが、江戸時代を通じて、下方五社浅間の別当をつとめた密教寺院に蓄積された聖教の全貌が示されたことの意義は大きい。そのなかで、個別論文として掲載した『三時法則』は、醍醐焔魔堂の勤行に関わる法則が、中世を経て江戸時代に至っても真言界全体に影響を与え続けた消息を伝えるものとして貴重な資料である。その研究は、今後の研究テーマである「宗教儀礼を視座とする唱導と縁起の統合的研究」に繋げていきたい。

(4) 研究価値の社会的発信も強く心がけ、その成果として、『箱根権現縁起絵巻』の研究は、絵巻を伝えた地域での文化講演会（2012.1.29）において成果報告を行い、地域社会に還元することができた。

さらに、『走湯山縁起』や『箱根権現縁起絵巻』の絵巻研究の成果を、書家・画家との協同のもと、静岡県伊豆山神社における平成の縁起絵巻『走湯山秘訣絵巻』制作（詞書の文を作成）に展開させることができた。その活動は、熱海新聞と伊豆毎日新聞（共に2011.9.20）静岡新聞（11.27）に紹介されている。

絵巻制作に携わるという希有な経験は、ただちにロシア・サンクト・ペテルブルグ東洋大学で共同開催した日本文化・古典文学サマーセミナー（2011.9.2）で、「絵巻で見る温泉の神様」と題しワークショップに生かし、日本研究を行う大学院生と学術交流に役立てることができた。

さらに、この絵巻を用いた新たな絵解きの試みを、フランス・パリ第七大学で予定されている絵解きワークショップにおいて行う予定（2015.10）である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

阿部 美香、「歴博本『転法輪鈔』「関白家修善」帖と松殿基房」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、査読有、188号、2015、印刷中
牧野 淳司、三好 俊徳、筒井 早苗、阿部 美香、猪瀬 千尋、「国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』翻刻と解題」、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、188号、2015、印刷中

阿部 美香、「富士行者としての唯念」、『昭和女子大学文化史研究』、査読有、17号、2014、1-14

阿部 美香、「『箱根権現縁起絵巻』に見る箱根修験の文化創造」、『足柄乃文化』、査読無、40号、2013、1-12

〔学会発表〕(計8件)

阿部 美香、「融通念仏縁起絵巻を創造するフレーム」、国際シンポジウム Frames and Framings in a transdisciplinary perspective、2015.3.8、学習院大学(東京都豊島区)

阿部 美香、「宗教遺産としての融通念仏縁起絵巻 絵巻が創造・展開する宗教空間」、人類の思想的営みとしての宗教遺産の形成に関する総合的研究(Cultural Heritage in Religion: Its Meaning and Preservation) - 宗教遺産学の構築に向けて」研究成果報告シンポジウム、2014.10.11、ボストン(アメリカ)

阿部 美香、「祝祭としての融通大念仏と能「百万」 - 御代の徳を言祝ぐ儀礼・絵巻・芸能」、イリノイ大学・国立歴史民俗博物館国際研究集会「東アジアの宗教とパフォーマンス、都市と地域」、2013.10.9、アーバナ・シャンペーン(アメリカ)

阿部 美香、「『融通念仏縁起』について」、開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌特別記念講演会、2013.5.27、融通念佛宗総本山大念佛寺(大阪府大坂市)

阿部 美香、「子安地藏尊の「約束」、開かれた地藏堂とその縁起」、六所家総合調査シンポジウム、2013.2.2、富士市役所(静岡県富士市)

阿部 美香、「中世メディアとしての融通念仏縁起絵巻」、説話文学会50周年記念大会シンポジウム、2012.6.23、立教大学(東京都豊島区)

阿部 美香、「開かれたタイムカプセル! 山北町に伝えられてきたもうひとつの箱根権現縁起絵巻と中世東国の宗教文化創造」、山北町地方史研究会・河村城址保存会主催文化講演会、2012.1.29、山北町中央公民館(神奈川県山北町)

阿部 美香、「融通念仏縁起絵巻を読む」、SOAS 日本宗教センター主催国際研究集会「前近代の日本におけるあらたな法会・儀礼学の構築をめざして ことば・ほとけ・図

像の交響』、2011.5.12、ロンドン(イギリス)

〔図書〕(計7件)

阿部 美香他、(開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌奉修局編)、法蔵館、『融通念佛宗 開宗九百年・大通上人三百回御遠忌奉修記念論文集 融通念佛宗における信仰と教義の邂逅』、「勸進帳としての融通念仏縁起絵巻 その成立と展開をめぐる」2015、243-269

阿部 美香、阿部泰郎他、富士市教育委員会、『六所家総合調査報告書 聖教』、「慶応目録所載現存聖教目録・仏書目録所載現存聖教典籍目録・聖教典籍拾遺目録」三時法則解題と研究」2015、72-268、446-461

阿部 美香他、(説話文学会編)、笠間書院、『説話から世界をどう解き明かすのか: 説話文学会設立50周年記念シンポジウム[日本・韓国]の記録』、「中世メディアとしての融通念仏縁起絵巻」、2013、30-50

阿部 美香他、(加須屋 誠編)、竹林舎、仏教美術論集第四巻『図像解釈学 権力と他者』、「結縁する絵巻-『融通念仏縁起』に描かれた 他者 の表象」2013、135-154

阿部 美香他、(昭和女子大学女性文化研究所編)、御茶の水書房、昭和女子大学女性文化研究叢書第八集『女性と情報』、「『融通念仏縁起』のメッセージ 正和本絵巻成立の意義をめぐる」、2012、209-228

阿部 美香他、(伊藤 聡編)、竹林舎、中世文学と隣接諸学第三巻『中世神話と神祇・神道世界』、「走湯山をめぐる神話世界とその生成」、2011、549-572

阿部 美香他、(川崎 剛志編)、岩田書院、『修験道の室町文化』、「『箱根権現縁起絵巻』と後北条氏の修験文化」、2011、201-227

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

資料集

阿部 美香 『宗教遺産としての融通念仏縁起
絵巻』(ハーバード大学ライシャワー日本研
究所「宗教遺産学の構築」国際シンポジウム
資料集) 2014、80 頁

阿部 美香 『融通念仏縁起絵巻の成立と展
開』(開宗九百年記念・大通上人三百回御遠
忌特別記念講演会資料集)、2013、82 頁

報道関連情報

伊豆山神社で、年一度、市民を対象に走湯山
縁起の世界を最新の研究成果を踏まえ解説
する講師をつとめた。その活動が、以下の新
聞で紹介されている。

『伊豆毎日』2014.4.1

『熱海新聞』2014.3.31

『熱海新聞』2013.2.19

『熱海新聞』2012.2.21

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 美香 (ABE MIKA)

昭和女子大学・人間文化学部・非常勤講師
研究者番号 10449093

(2) 研究分担者：なし

()

研究者番号：

(3) 連携研究者：なし

()

研究者番号：